

様式第 1（第 6 条関係）

議会報告会等実施報告書
総務建設常任委員会

開催日時		令和 7 年 2 月 2 7 日（木） 午前 1 0 時 0 0 分 ～ 1 1 時 3 0 分
開催場所		大口町役場 3 階 第 5 委員会室、第 2 委員会室
出席議員		委員長 藤田 敏英（趣旨説明） 副委員長 宮川 基英（司会・進行） 委員 山崎 卓美 委員 松本 佳子 委員 江幡満世志 委員 丹羽 勉 委員 鈴木 和江 委員 江口 昌史
参加者数		災害救援ボランティア 会員 6 名 大口町社会福祉協議会社会福祉士 2 名
実施内容	議会報告会	
	意見交換会	『災害発生！地域でできることは』というテーマで、町内で災害・救援活動や防災体制強化などに携わっている災害救援ボランティアの皆さんと、社会福祉協議会防災担当の方に参加していただき、災害発生直後に住民が取るべき行動についての意見交換を行った。
要望・提言等		別添 参照
その他特記事項		各家庭の備蓄品目や数量等を改めて考え直す機会に、また小さな交流・活動から培われる地域の繋がりの強さが被災の減災につながる。そして避難所運営上の課題、備蓄食料に食物アレルギー対応食を加えること、障がい者（トイレ等）への配慮等意見交換の中で共有した課題は執行部と共に改善へつなげていきたい。

令和 7 年 3 月 1 3 日

大口町議会議長

江口 昌史 様

議会広聴広報常任委員会委員長

松本 佳子 様

総務建設常任委員会 委員長 藤田 敏英

総務建設常任委員会 意見交換会

令和7年2月27日 10時00分～

大口町役場3階 第5委員会室他

災害発生時、公助による支援が届くまで、およそ三日を要するとされているため、それまでの間は、自分の身は自分で守るという「自助」と、地域で協働して助け合う「共助」が機能・連携することが重要である。

そこで、「災害発生！地域でできることは」というテーマを設定して、本町における防災の現状を良く把握されている災害救援ボランティアおよび社会福祉協議会の方々と意見交換をさせていただき、本町の防災対策の一助とすることを目的とする。

1. 意見交換会参加者

災害救援ボランティア	6名	社会福祉協議会 社会福祉士	2名
総務建設常任委員会委員	8名	(2グループに分かれて実施)	

2. 意見交換について

当日出された主な意見は次の通りである。

- | |
|---|
| ・災害発生直後は、警察や消防などの行政は被害の大きい所への対応が優先される。従って、当面は公助に頼らずに自分（地域）たちで補う必要がある。 |
| ・被災直後は特に、トイレ、食事、寝る場所の3つを確保することが課題となる。 |
| ・避難所内の衛生を保持するために、土足個所の制限を行う必要がある。 |
| ・避難所における夏場の熱中症対策、冬季の防寒対策は必須である。 |
| ・避難所生活を送るにあたっては、障がいを持つ方への配慮も必要である。 |
| ・避難所に派遣される職員には限りがあるため、マンホールトイレの設置に関しては自分たちで行う必要がある。 |
| ・町設置の給水施設を活用する場合には、どのような方法で住民の元に届けられるのか、予め考えておく必要がある。 |
| ・避難所でもペットと一緒に暮らせるようにしてほしいという要望がある一方で、周りにはペットが苦手（アレルギー等）という方もあり、一律の対応は難しい。 |
| ・糞尿は、可燃ごみで出すことも可能だが、生ごみと分けることを徹底してほしい。 |
| ・避難中に泥棒に入られる事例も多いと聞くので、注意が必要である。 |
| ・ボランティアの方に来てもらう際には、受け入れる側としての準備も必要である。 |

3. 総括・所感

当日は、参加者を二つのグループに分けて意見交換を行った。

各グループで様々な意見が交わされたが、共通して見られた話題として、避難所におけるトイレの問題、アレルギーを含む食事の問題、ゴミの問題などがあった。

また、参加していただいた方の中には、実際の災害現場でボランティア活動に従事された経験をお持ちの方もおられ、災害現場の実情についての話を聞くことができた。今回の意見交換会を通して示された課題としては、次のようなものが上げられる。

- ・災害に対する必要な備えは、一人ひとりの事情によって異なる。
- ・避難所では、皆が同じ条件ではないため、お互いへの配慮が必要。
- ・支援が届くまでの間は自分たちの力で乗り切る必要があり、そのために日ごろからの自助・共助の備えを構築しておくこと。

今回いただいた意見は執行部と共有し、本町における強固な防災体制を整えるための一助とすべく、引き続き、委員会として調査・研究を進めていく。